

## 農業総合研究所

### 北海道農業を科学的にバックアップ。 実り多い未来はここから拓けます。

農業に関するさまざまな課題にアプローチ。作物の生産現場から消費者にお届けするまでの分野で幅広く研究を行い、科学的なデータを裏付けとして、北海道のグリーンな農業を支えています。



北海道内4施設で幅広い研究。

農業総合研究所は次の4つの施設を有します。農業総合研究所(札幌市)、長沼研究農場(長沼町)、恵庭研究農場(恵庭市)、バイオ研究センター(長沼町)。

貯蔵・流通・加工・食品の安全性に関する研究は札幌の農業総合研究所で行い、品種開発・生産技術・育種効率化の研究はほかの3施設で行っています。なお、環境に配慮した試験・研究・開発業務に継続的に取り組むために、環境マネジメントシステムISO14001の自己適合宣言を実施。環境への高い意識を持ちながら、研究活動を行っています。



### 北海道農業のための品種開発。

農と食の未来を見つめると、品種開発は重要なテーマです。長沼と恵庭の研究農場、およびバイオ研究センターでは、北海道に最適な新品種の開発とその栽培方法を研究。バイオテクノロジーの活用や病害抵抗性の検定など、多面的な取り組みを行っています。

研究の対象は馬鈴しよ、春播小麦、玉ねぎ、水稲など12品目。パン用の小麦「春よ恋」は、1989年から開発を進めてきました。高い収量や優れた栽培特性を持つことから急速に普及し、現在では北海道の春播小麦の約9割を占める品種となっています。



### 安全・安心、 そしておいしさのために。

生産技術に関しては、農薬や肥料をはじめ、生分解性資材や病害抑制剤に関する研究。食の安全をより確かなものにするべく、取り組んでいます。育種の効率化に関しては、約培養や組織培養技術、DNA情報を利用した選抜技術を開発。貯蔵・流通段階における技術開発や調理・加工技術についても研究を進めています。

こうしたさまざまな研究が、たとえば



### 新鮮なおいしさを 全国の方々に。

北海道の農畜産物の約7割は都府県へ運ばれ、その新鮮さを守りながら届ける役割を物流部が担っています。生乳をはじめとする農畜産物を積載した「ほくれん丸」と「第二ほくれん丸」は、釧路港と日立港を結ぶ海上ルートを毎日就航。向港を約20時間で結び、トレーラー130台を積載可能な主要物流ルートとして機能しており、燃費改善による省エネルギーを実現しています。輸送には船舶以外にトラック、鉄道、航空も活用。東京の食品流通センター(倉庫)を拠点として首都圏での二次配送を行うなどの物流体制を構築しています。また、品質保持と安定供給に全力を注ぐ一方、環境対策や安全規制強化への対応も徹底しています。



### 環境対策も情報発信も スポーツ支援も積極的に。

役員室はホフレンの経営計画の立案、営業・環境対策、食の安全対策、CSRや危機管理、コンプライアンスと

## 管理本部

### ホフレンの組織を支え、社会とつながる さまざまな部門が集結しています。

ホフレンの各部門が円滑に機能していくために、組織全体を支えるのが管理本部。経営方針立案から、財務・物流・広報など、幅広い業務を担当し、外への窓口としての役割も果たします。



### 信頼される 組織であるために。

ホフレンは、食品を製造する直轄施設および子会社等の全35施設において、衛生管理などの品質管理の向上を計画的・継続的に推進し、また、食品製造施設に対する食品品質監査を実施しています。今後もお客さまの信頼に応えられるよう、食の安全に努めています。

### 主な事業内容

- 役員室
- 経営計画の立案
- 食の安全対策
- 広報宣伝 など
- 人事部
- 職員採用
- 人材育成
- 労務管理 など
- 総務部
- 文書管理
- 労働環境の整備 など
- 経理
- 情報システムの構築・管理 など
- 物流部
- 物流体制の構築・整備 など
- 監事監査室
- 監査 など

### 札幌はもちろん海外でも 北海道の味覚をPR。

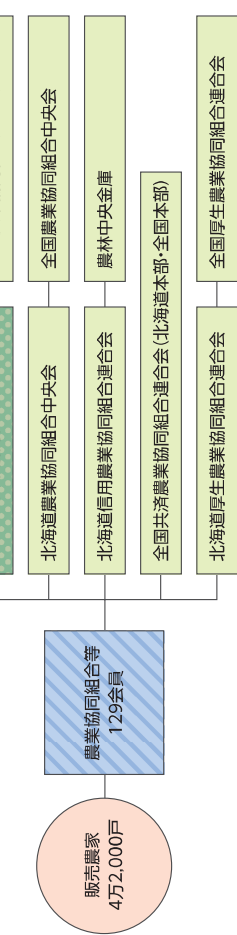
収穫の喜びを皆さまと分かち合う「ホフレン大収穫祭」は1972年から札幌三越にて開催。職員も販売員となつて、秋の味覚をPRするほか、札幌市内の児童福祉施設に北海道産新米4トンを寄贈しています。

海外での市場拡大にも取り組んでおり、行政・関係団体と連携して「北海

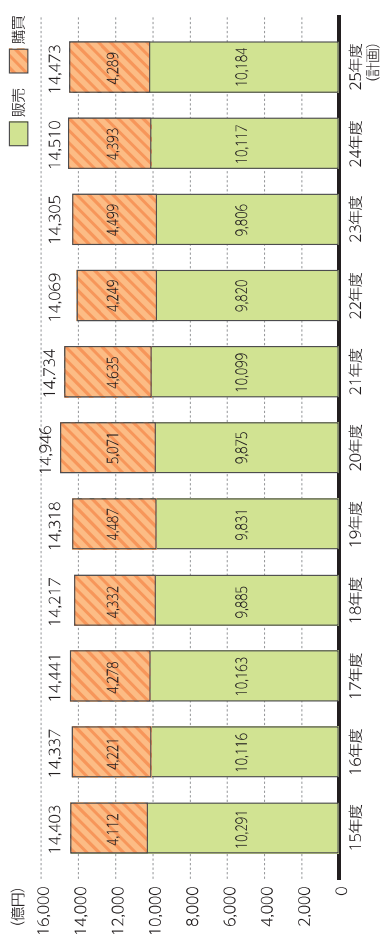
# 図表でみるホクレン

【会員数】 129 (正会員128、准会員1) 平成25年4月1日現在	【代表理事会長】 佐藤 俊彰 Satou Toshiaki
【出資金】 201億円	【代表理事副会長】 伊藤 政光 Itou Masamitsu
【取扱高】 14,510億円 (平成24年度)	【代表理事副会長】 小野寺 仁 Onodera Hitoshi
【職員数】 1,943名 (出向者・嘱託を除く) 平成25年3月31日現在	【代表理事副会長】 淵澤 義一 Takizawa Yoshikazu
【事業所・施設】 70カ所	【代表理事専務】 石川 治徳 Ishikawa Harunori
	【代表理事常務】 高嶋 敬美 Takashima Toshimi
	【代表理事常務】 坂東 寛之 Bandou Hiroyuki
	【代表理事】 木下 一己 Kinoshita Kazumi
	【常任監事】 得能 深 Tokunou Kiyoshi

## JAグループ組織図

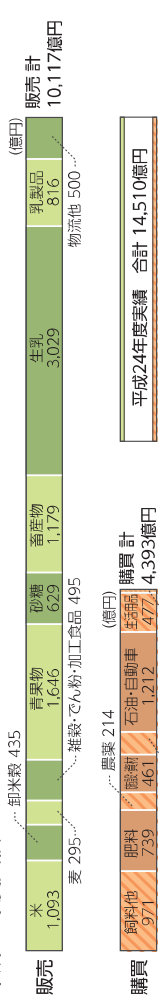


## 取扱高の推移

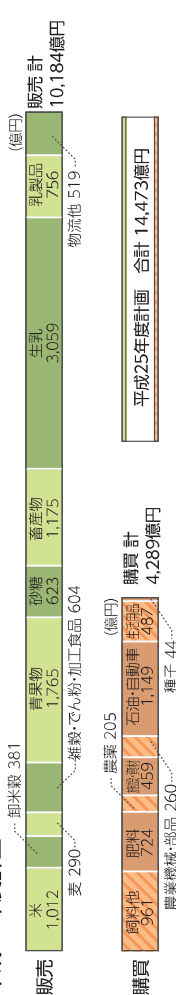


## 品目別取扱高の内訳

### 平成24年度実績



### 平成25年度計画



## 組織図

